

視聴覚教育

NO. 452

発行日

R01. 10. 1

編集・発行

岡崎市AVL

編集協力

現職研修委員会

学習情報部

これ知ってる！？

シンギュラリティ

技術的特異点。人工知能が加速的に発達し、人間の知性を超えることによって、生活に大きな変化が起こるといふ論がある。2045年頃であると予想されており、2045年問題とも言われている。

視聴覚教育あれこれ

令和元年度岡崎市教育研究大会

8月29日(木)、新香山中学校で令和元年度岡崎市教育研究大会の学習情報分科会が開催された。助言者に名古屋大学大学院特任教授の大谷尚先生をお迎えし、「情報活用能力を生かして、超スマート社会を能動的な学び手として生きる子供の育成」をテーマに、熱心な報告や討議が行われた。発表された19点のリポートの内容を分類すると、新学習指導要領を踏まえ、プログラミング的思考の育成を目指した実践が、小学校で確実に広がっていることが伺える。



① プログラミング的思考の育成を 目指した実践(10点)

② 各教科・領域で効果的なICT 利用を追究した実践(5点)

③ 情報社会をよりよく生きる心の 育成を目指した実践(4点)

助言者の大谷先生からは、提案されたリポート全てに対し、題材選びやICTを活用する場面への助言、また、プログラミング学習のねらいなど、具体的な御指導、御助言をいただいた。なお、「父母と教師の教育を語る会(県教研)」には、次の二名が推薦された。

・男川小学校 南谷 明徳 先生

「論理的思考力を育むための
プログラミング授業の効果」

・北中学校 太田 尚志 先生

「未来の情報モラルについて考えることで、
超スマート社会を主体的に生きようとする
生徒の育成」

〈中1、2、3道徳「さよなら、あい
また、私たちに、個人所有する外部記憶媒
体の利用が、一人一つに限って認められている。

「公」か「私」か

現職研修委員会学習情報部長 森

竜師

保護者からの問い合わせに慌てる担任がいる。例年の学年行事。あると知りながら、その計画と段取りを先延ばしにしていたのだ。電話の保護者に詫びながら、近日中に御連絡しますと言って受話器を置く。さて、どうしたものか。

まずは、概要の確認。都合のいいことに、昨年度の担当者は隣の席だ。

「昨年度のデータって、どこに保存してある？」

(今更、この質問…。保存場所は決まっている)

「私のUSBメモリの中に保存してあるよ。」

(おいおい、だから次の担当者が困るのだ)

さて、ここ二十年の間に、様々な仕事パソコンで処理できるようになった。ペーパーレス化の流れから、最近では市教委からの通知文書や製本物もデータで送られてくる。しかし、そのデータの管理の在り方(分類・保管・廃棄)については、学校によって区々である。

また、私たちに、個人所有する外部記憶媒体の利用が、一人一つに限って認められている。

そして、その容量に制限は無い。大容量の記憶媒体が一般化する中で、様々な、そして大量のデータを保存して持ち歩いている先生もいると聞く。はたして、そこに保存されているデータは、いったい何なのか。

担任が企画した学級レクの企画書。子供の頑張り綴った学級通信。遠足で子供と一緒に写ったデジカメの画像。それらは、共有のデータとして学校のサーバに保存しておくべきか。あるいは、個人のデータとして個人所有のUSBメモリに保存して、持ち歩いてよいものか。

「公」か「私」か。この実に曖昧な境目が、私たち教員の仕事には多い。そして、それが教育の特質でもあり、働き方改革の課題でもある。

他の企業はすでに実現しているように、それほど遠くない未来には、きつと私たち教員も、自宅に居ながらに、学校に居るのと同じ環境で事務仕事ができる日がやってくるだろう。その時には、おそらく個人で所有している外部記憶媒体の利用は、禁止されるに違いない。

「公」を意識して、データを明確に整理できること。その力が、間違いなく私たちの働き方を見直していくきっかけの一つになる。

実践報告 II

水族館で海の生き物を動かそう

奥殿小学校 阿路川 昌宏

市のプログラミング学習モデルカリキュラムは、特別支援学級の授業にも応用できる。本学級には二、三、五、六年の児童が在籍しているが、「ビスケツト」というソフトは、どの学年の児童でも、遊びながら直感的にプログラムとは何かということを理解できる。今回は、一年生で実施が推奨されている「はっけん！あたらしいなかま」を本学級で実践した。児童は最初、「プログラミングって何？」と不安

な表情を浮かべた。しかし、教師が段階的に用意した課題を一つ一つクリアしていくうちに、「プログラミングって楽しい」と明るい表情になった。絵の描き方や「めがね」と呼ばれるプログラミングの方法を丁寧に指導すると、操作方法を習得することができた。慣



れてくると、「速く動くようになったぞ」「ゆらゆら動いてるよ」と、プログラム通りに絵が動く楽しさを感じることができた。自分で動きをプログラムした海の生き物が、画面の中で思い通りに動いている様子を見た児童は、大いに達成感を味わっていた。最後に、デジタル水族館に児童が作った作品を集約し、魚たちを泳がせた。「ぼくの作った魚だ」「本当の水族館みたいだね」という言葉が飛び交っており、児童はとても感動している様子だった。

今後は、更にプログラミング学習の魅力や楽しさを伝えていくと共に、児童の論理的思考力や情報活用能力を育成できるように授業を実践していきたい。

II レッツ・トライ！ ICT II

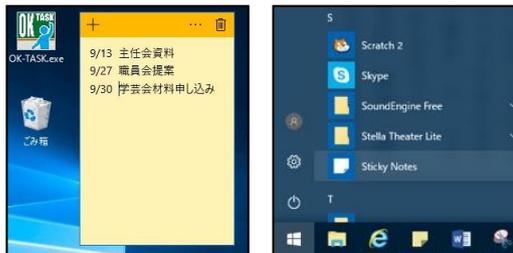
今回紹介する ICT アプリ「Sticky Notes (スティッキーノート)」

Sticky Notes はウインドウズに付属する付箋アプリで、付箋のように気軽なメモを、誰でも簡単にデスクトップに残すことができる優れたものだ。通常の付箋では、紙が劣化したり、粘着力が落ちて紛失したりする危険があった。しかし、このアプリを使えば、パソコンのデスクトップにデータが保存されるので、劣化や紛失の心配はない。

スタートメニューのアプリの一覧から選択すればアプリが起動し、自由に予定やメモ内容を書き込むことができる。「+」をクリックすれば新しいメモが追加され、ゴミ箱をクリックすればそのメモを削除できる。メモの周囲をドラッグすれば大きさを変更することができる。メモの色を変えることもできる。

より便利に使うためには、ピン留めがオススメである。スティッキーノートのアイコンを右クリックし、「スタート画面にピン留めする」もしくは「タスクバーにピン留めする」を選択すれば、分かりやすい場所にアイコンが常駐する。操作の手順を減らすことは、働き方の改善にもつながる。

(井田小学校 学習情報主任 岡田 淳也)



ライブビューだより

●情報モラル出前講座のお知らせ

視聴覚ライブラリーでは、職員が学校等へ出向き、児童生徒・保護者・教員を対象に、ネットトラブルに関する情報提供や注意喚起を行っています。平成30年度は15の小中学校・施設で講座を行いました。

申込む際は、視聴覚ライブラリーHPの「情報モラル出前講座」のリンクから申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、ライブラリーに提出してください。希望日は複数出していたいただくとありがたいです。

●第17回「ふるさと岡崎」

メディアコンクルの御案内

ビデオ、マルチメディア教材の自主制作振興や、優秀作品を収集し学校教育・社会教育に活用する目的で「ふるさと岡崎メディアコンクル」を今年度も開催します。先生方や児童・生徒の皆様、ふるってご応募ください。

●募集期間

令和元年10月1日(火)～12月2日(月)

※今年から募集期間が長くなっています。

※巡回郵便や持参、郵送で受付。最終日消印有効。

●応募先 岡崎市視聴覚ライブラリー

〒474-8601 岡崎市菅生町1-3-1

●テーマ 自由 (生涯学習、学校教育に適した素材・内容で、応募者の自作であること)

※募集要項や応募用紙は、視聴覚ライブラリーのHP (<https://www.oavt.jp/>) に順次掲載します。

